

2154

繪本寫寶袋

再板

畫師浪速 橘有稅

寫寶袋

前編

浪華書舖 稱觥堂板

繪本寫寶袋叙



鄒國公曰。離婁之明。公輸
子之巧。不以規矩不能成。
方員。畫工教人亦類。是不
以畫本不得成。形狀畫本

《寫錦袋序》

者規矩也。且夫物之形狀
夥矣。牙角者孰不知其為
獸。羽毛者孰不知厥為禽。
縱令雜異獸異禽於其所
寫。辨之於其所彩別之者。

其必盡乎畫之規矩可謂
博矣。狀之辨之而不可盡
而盡之不可測而測之者
妙也。神也。妙在心之規矩。
畫本者形之規矩。以於之

寫錦袋序

〇二

規矩入心之規矩所謂盡
神妙者也。公輸子遂折規
毀矩而騁其精巧亦不出
此理之外。爾今竊以此徑
為此畫本。方者不圓。圓者

不方○ナラ動者忙○ク靜者閑○ク三遠
 之要七定○相于体萬狀
 皆寫使之在○ニ此内若措規
 矧而探妙測神者雖一生
 盡心スト○ヲ吾未見得其神妙ヲ○

寫錦袋序

觀此本者庶幾思諸省維
 享保五歲次庚子三月吉
 日橘氏有稅子探毫於浪
 花後素軒



繪本寫寶袋一之卷目錄

和歌三神之圖

公家東常衣冠之圖

右体大臣之像鋪之始

源氏法着薄子部之圖

同園門戸垣之圖

後羅錦鋪地紋之圖

宮女夜露之圖

衣被物見之圖

女三衣之圖

采式初物語之圖

源氏時之卷之圖

同雛月夜之圖

同浮舟之圖

同紅紫笑之圖

寫錦袋一 目錄

新交女御之圖

伊勢物語六条宮の圖

梅枝小娘之圖

同葉車下之圖

宮女花見車之圖

忠盛府之圖

源氏物語之圖

中國談話小越之圖

忠度秋の空之圖

寫宮梅之圖

鴉鵲小町之圖

大進物之圖

和歌之三神 玉津嶋御所

春通娘の御所天宮の孫
 允恭天皇の后の妹也
 宮姿數に及夜小徹て
 見るゆへ人々通るゆへ
 先恭帝此妃也
 聖武天皇御建元年
 紀伊和歌浦
 小玉津嶋御所と
 わめりり秋草
 神衣候 唐衣白地
 御後衣衣兼又
 御衣のうんかん
 御赤又の白さう御
 御仕立也このあり白
 二御室のりうむかん

寫錦袋



左に三位持左衛門

左史姓の持中依人丸
 孝監天皇の後胤あり
 右今集序におほこの乃
 らお持左丸丸さかんこ
 ろひのりありなり云云一り
 耳まゝる見圓角の宝持の
 昭るに丸天の御と案案
 御 帽子御衣表天袍
 御を垂夜とさかんとさ
 御と袖一幅二幅深傾け袖一
 幅様白し一幅二幅深傾け
 御後御衣そくく御袴御
 又御衣紋二のり八徳の衣
 御派を書奉帝と吳也



久し此おまけ人
 香乃さそ
 降はは

右山邊赤人

山邊の姓也所の名なり
 又起詳多す神皇正統の
 此の人聖武帝九神宮ふ
 奉さ山邊の姓系より
 古今集の所に山邊赤人
 とりてありたりふあや
 しむ妙あり人丸赤人
 がかまにえんとかて赤人
 人丸がふりふておとる
 くまわりなる云々
 袷袴衣はさる衣白く
 袴帯白く地紋空の印
 女袴白く紋単白く又ハ
 袴花田袖結白く

寫錦袋



文官束帶之圖

大臣大納言
 中納言

冠 無纒 袴 下襷 表袴 赤大口
 石帯 襷 履 或ハ單大帷
 大帷ハ為袖衣紋ナリ
 冠 黒濃墨割塗或ハ薄墨隈墨
 テ菱ヲカク 纒 薄墨濃墨
 如此カク中子ノ上ト末ニ濃墨ニテ
 如此菱ヲ畫ク 袴 大畧黒シ極
 丹青ハ粉墨ニテ刻塗地紋光墨ニテ
 領カミノ中襟袖ノ中ニ有祛何レモ
 朱又白モアリ 裾ハ白シ
 面殿上眉アル時ハ鬚ナシ帷赤シ
 生眉ノトキハ鬚ヲ登ク帷白シ
 表袴白紋窠霞銀泥ニテカク
 赤大口表裏朱金括 襷白 袴ニタチキ

故銀泥



武官

左大將 右大將 左中將 右中將 左少將 右少將

冠如文官卷纓常ノ纓ヲ内ニキススル
 テイ也。總下墨具薄墨クニキスス筋
 カキ。袖關腋弓矢ヲ不持トハ纓ヲ垂

帶劔櫛



鞆 金
 釋 鞆 草 蒲 華
 毛 接 形 分 銅 鐔
 金 金

垂之圖



紳之圖



是唐ノ禮服ノ飾ヲ衣裳ノ權也。重飾
 及王侯束帶之時著シ終テ後ニ佩之
 曲領ト紳ト一雙ノ物也

寫錦袋一

衣冠之圖

冠 袍 奴袴

束帶の外一はこれと畫
 源氏傳抄の源氏之條を
 束帶これより衣冠のつ
 小束衣爲物多にありの
 爲りら白袂他より束帶
 衣冠あり
 束帶の爲に威儀に畫
 衣冠ハハ何ぞ小畫を畫
 西奴袴一はこれと畫
 袍及衣單と衣あり
 奴袴案有 爲畫白
 後ハ有 畫た衣 浮線後
 公是を浪泥と畫あり

矢羽切生



エジエジダ 紅
 ロクセウニワウク
 三



立馬帽子直衣

源氏法衣はくはくして居
申のさりのかり小そりの
事とあり

○春の法衣 直衣白

○秋の法衣 直衣青

○冬 直衣黒

○夏 直衣白

○秋の法衣 直衣青

○冬 直衣黒

○夏 直衣白

○秋の法衣 直衣青

寫錦袋

風折狩衣之圖

鷹野の法衣 直衣白

○秋の法衣 直衣青

○冬 直衣黒

○夏 直衣白

○秋の法衣 直衣青

○冬 直衣黒

○夏 直衣白

○秋の法衣 直衣青

○冬 直衣黒

○夏 直衣白

○秋の法衣 直衣青



五



吉備大臣之像

孝聖天皇二十二年二月公
 倫列賜小幡後亂真始元正
 天皇の御宇聖德二年公
 又三史海陽佐藤
 又考據
 二年に遷居役と
 加藤氏の祖也
 又曰西武天皇の御宇日牟
 大慶(百物)からに空傳仲麿
 仲麿と云ふは又吉備臣



徳一
 大幡
 裾巾
 南

役とて唐つらるる意
 又小基と云ふ仲麿が
 書とてぬり小幡吉備公
 小幡の文様と云ふ吉備の
 漢一と云ふ意を云ふ也

寫錦袋

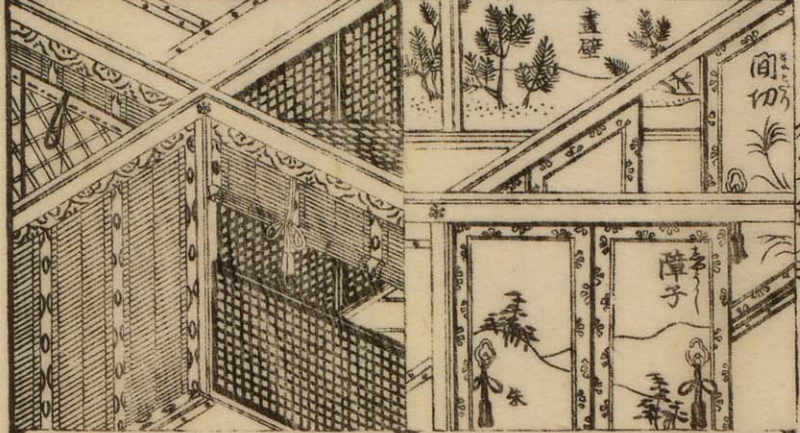
吉備公唐遣の錦袋

わらあはよ公の御うま
 ありてし唐帝感して言する
 吉備公の唐遣へ去来の時
 武部のとらふあす
 又月むせく補と雖もい
 唐とて見らるいぬ船の後
 人小敷
 ぬいあ
 たりふ千に
 ありあやふまも
 とありあやぬいり
 ありあやふまも
 しては公の唐遣の時

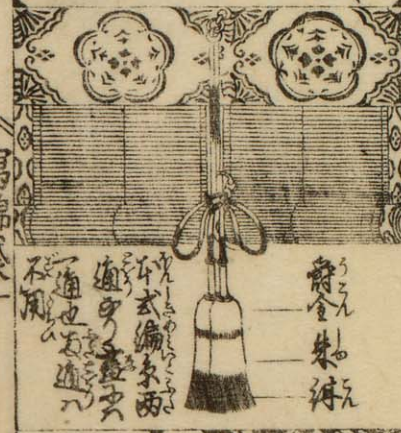


下
 衣
 衣
 衣

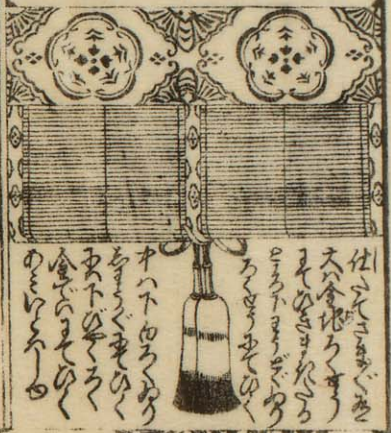
障子 壁 冬春 本 藤 一 方 竹 秋 用



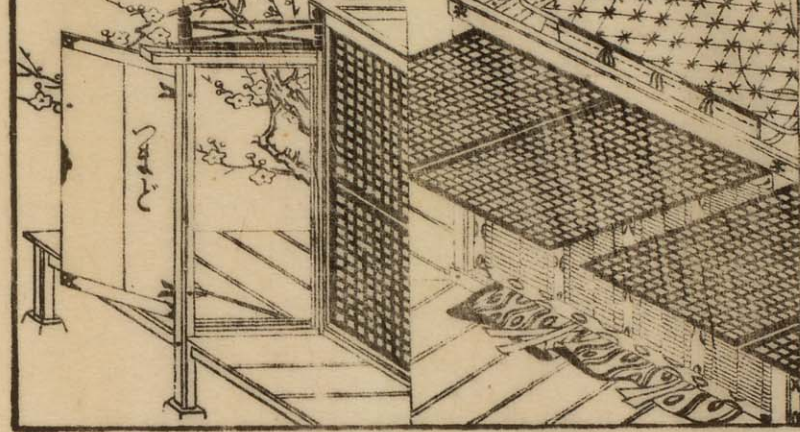
同 内 面



卷 簾 外 面



子 橋 本 藤 本 竹 簾 戸 妻



簾 之 法



寫錦袋

障子 朱 漆
 障子 朱 漆
 障子 朱 漆

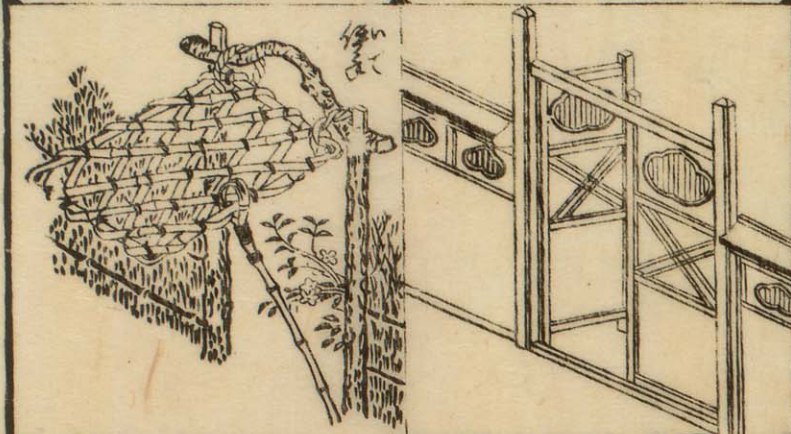
仕立 朱 漆
 仕立 朱 漆
 仕立 朱 漆

簾 之 法
 簾 之 法
 簾 之 法

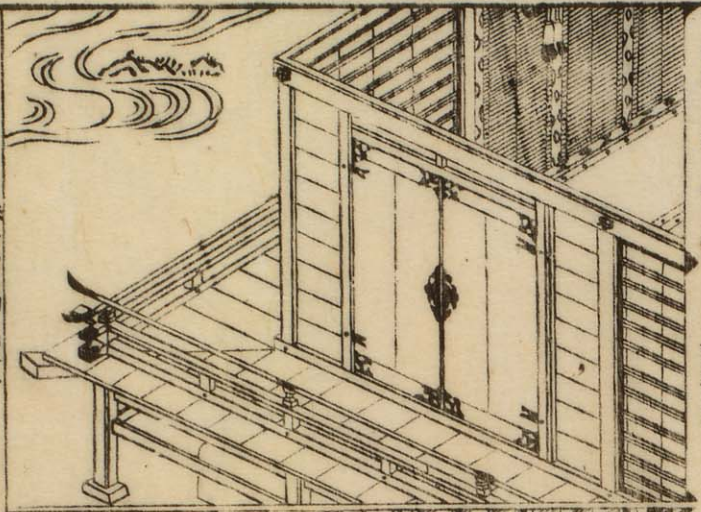
平 鑑 之 圖
 平 鑑 之 圖
 平 鑑 之 圖

簾 之 法
 簾 之 法
 簾 之 法

大和の門の御色目 竹戸の戸 戸の戸 戸の戸 戸の戸



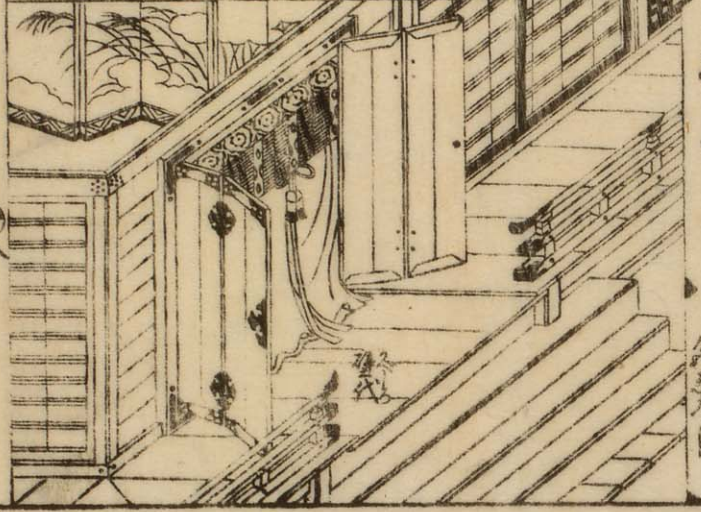
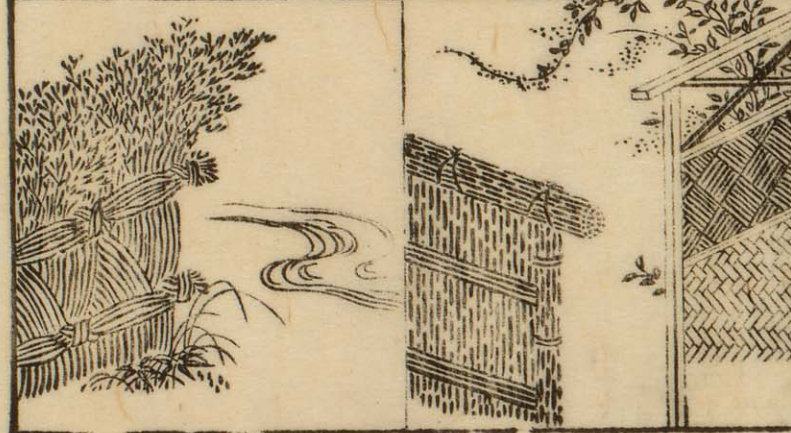
寫錦袋



大和の御色目 女室の御色目

女室の御色目

大和の御色目 女室の御色目 女室の御色目 女室の御色目 女室の御色目



大和の御色目 女室の御色目

大和の御色目 女室の御色目

源氏法

人形衣裳地紋心略之圖

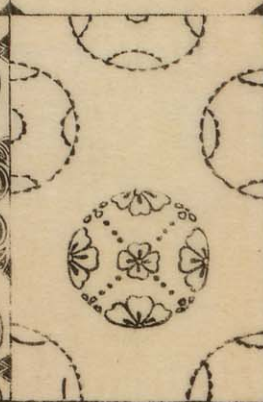
浮線縹



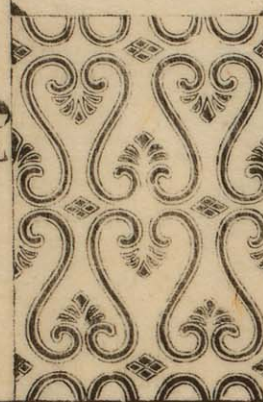
梅



浮線縹



梅



雲之涌



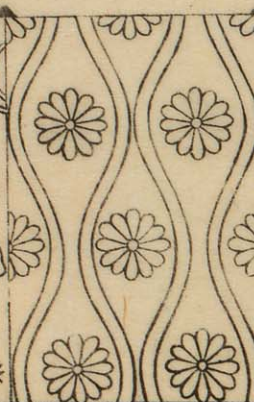
唐草



龍膽



葉之涌



松竹梅



唐草



寫錦袋

九

鳥とり 袴はかま

霰あられ 雲くも

八やち 藤ふじ

鳥とり 袴はかま 畷はな

三さん 重おも 袴はかま

菱ひし 綾あや

屏風の裏に
紋柄を
袴の裾で
裾唐より裾
唐より裾

唐
唐

唐
唐

寫錦袋

宮女之衣
十二単と云

附唐衣之圖

長き襷より上下文地紋がよりなる唐衣とせしるあり
あしより下唐衣なり
又と下一棹の文地紋は仕立の唐衣とせしる小袖と云也
帯は唐衣の衣の文地を唐一丈の袴に余

單表地紋

單ひとへの
五衣ごいと云ふ
表著あはうはふ
唐衣袖身からみより

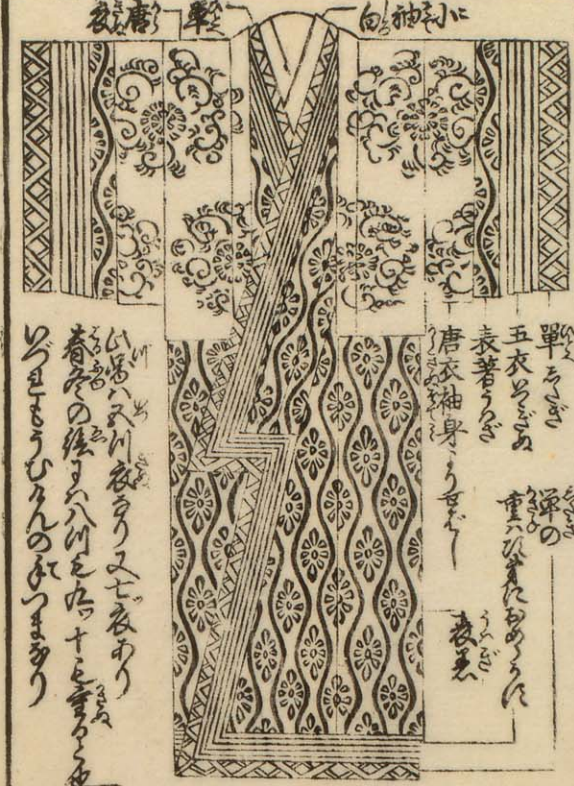
表著

袖そで 白しろ

唐から 輕かろ

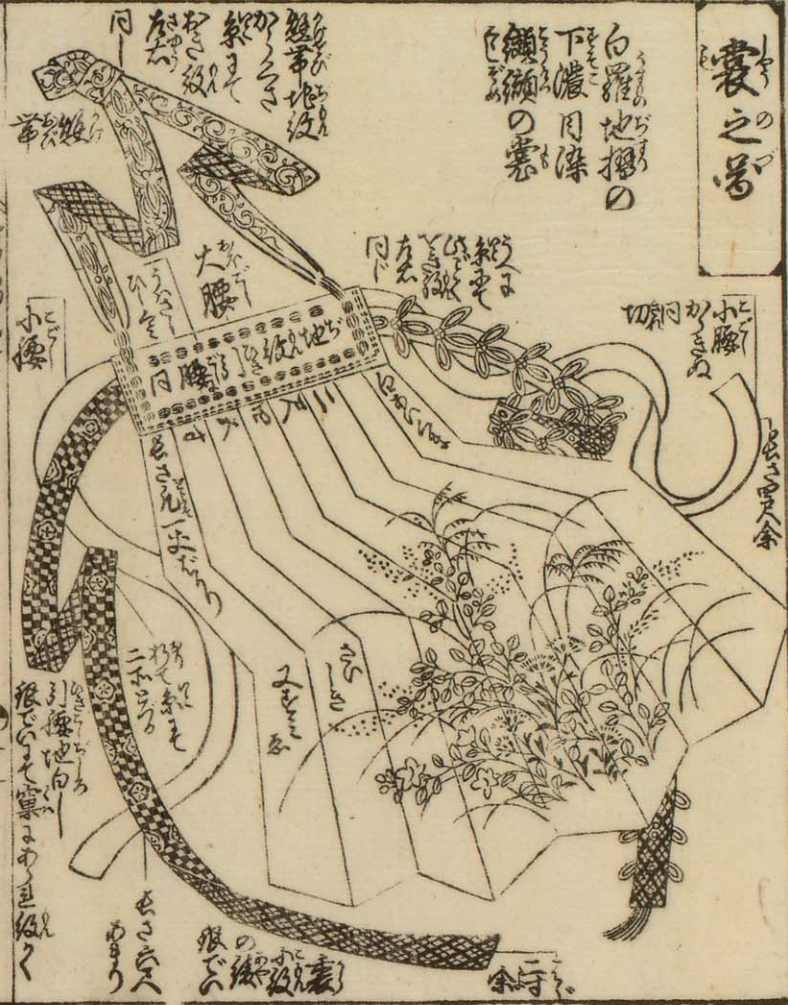
同裏地紋

春の後の八つを九つと云ふ
りつと云ふ八つは九つと云ふ



裳之号

白羅地摺の
下濃月深
縹の裳



長き足余

余す

寫錦袋



女房

同字分

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

之号

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

裳

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

白

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

縹

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰

かこめ

うしろ

小腰

長袴紐

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

小腰下

かゝるも色様
すそま
夜あり

襦の長さ
大四五尺
茶の長さ
大二三尺
茶一幅半
後二寸

りらく
小野
細長と云ふれ
どと細長い袖

くろり
かゝるの類
腰帯あり

襟の長さ
依り
依り

衣被

宮女の被也

鞍馬

花見

露染

物見

之時

又うらうらの
とまよと
あれと

あれと
あれと

寫錦袋

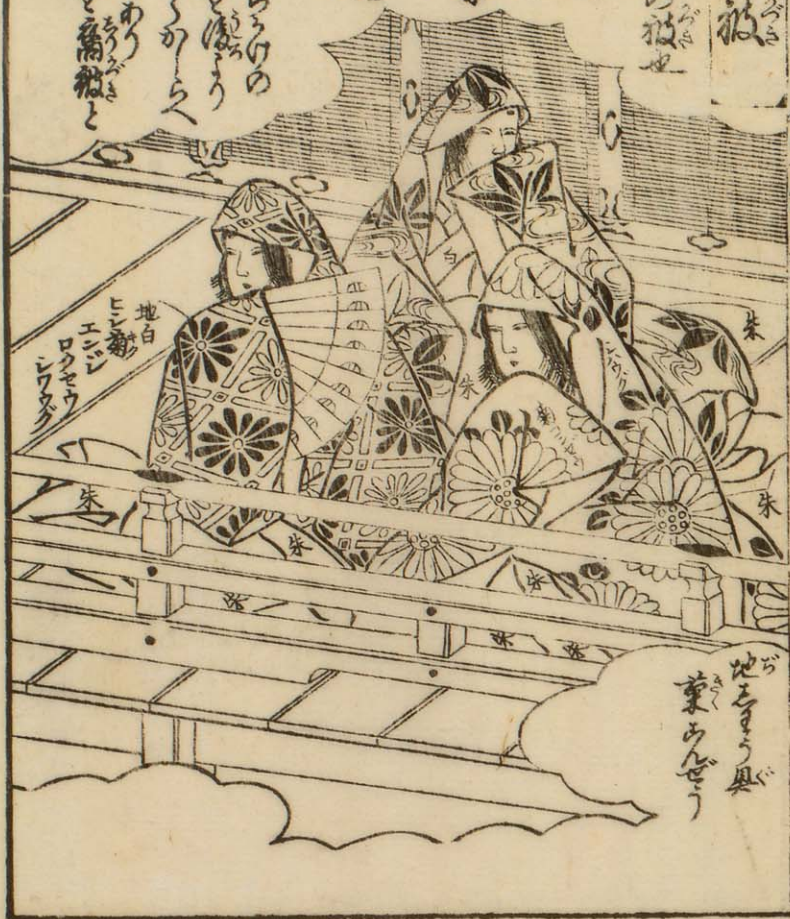


大襦の
りま
地紋
りま
朱
合派社

小町
おん
あは
あは
あは

地王
葉

十一



地白
エニシ
ロウモウ
シワタ

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

朱

源女三宮

二ホ
ニ品
親
シ
ミ





秋の夜更け

月影の如し

松の影の如し

いづれか源氏物語の
月影の如し
松の影の如し

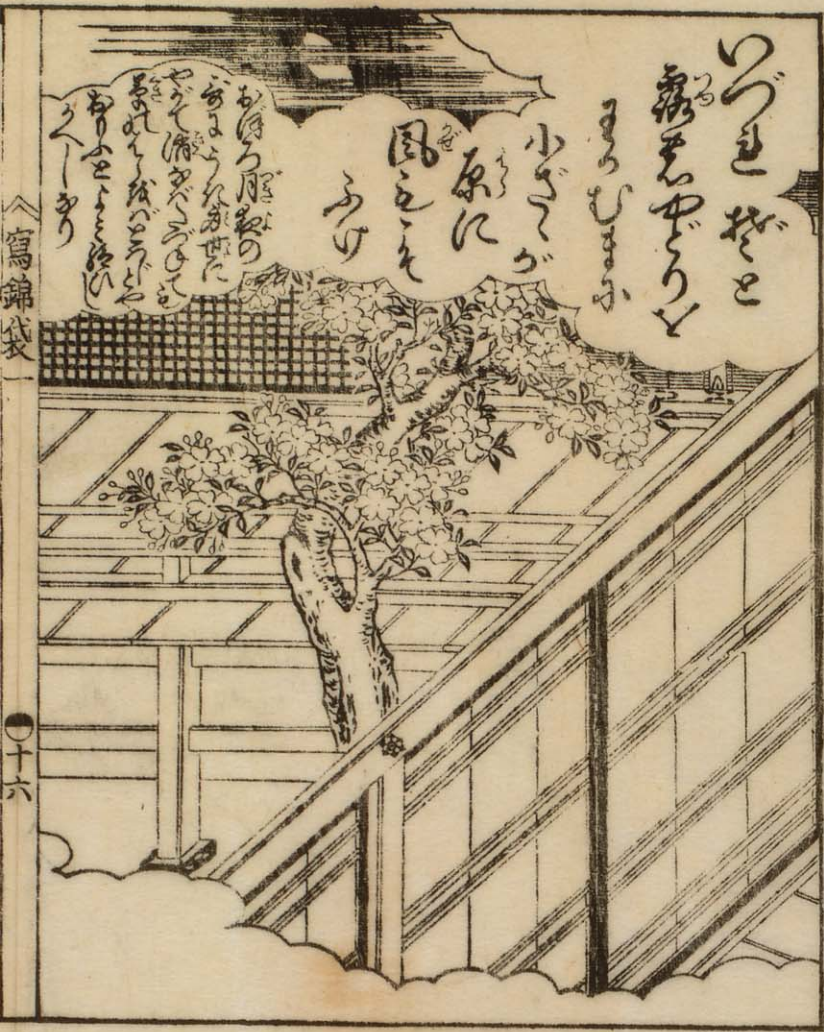
秋の夜更け
月影の如し
松の影の如し

いづれか源氏物語の
月影の如し
松の影の如し
いづれか源氏物語の
月影の如し
松の影の如し



秋の夜更け

いづれか源氏物語の
月影の如し
松の影の如し



浮舟 壱十帖の内

い浮舟は東巻の
 三葉は
 壱十帖の内
 壱十帖の内
 壱十帖の内



舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟

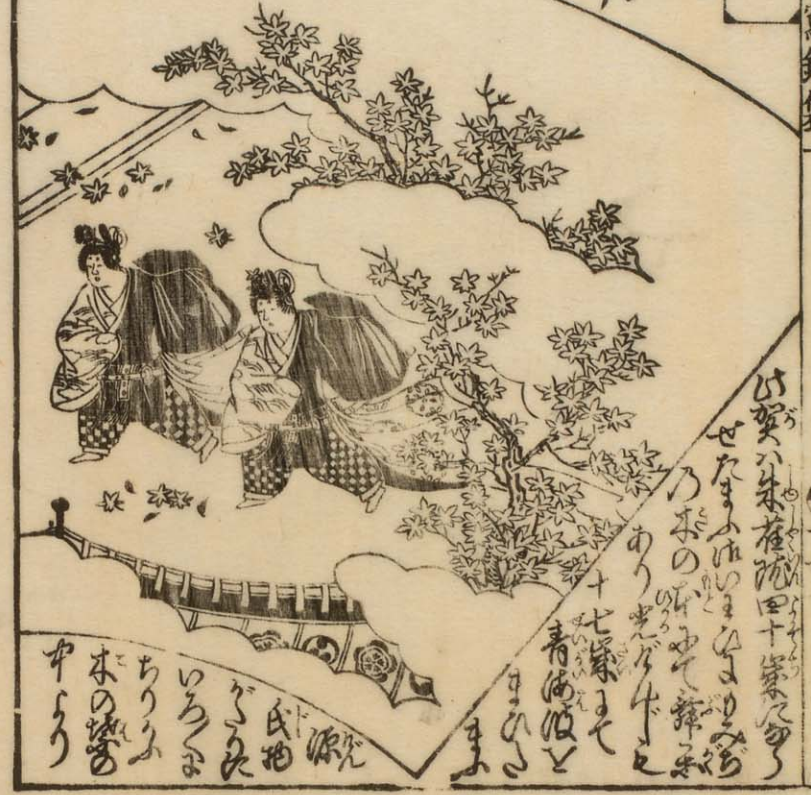
舟
 舟
 舟
 舟
 舟



舟
 舟
 舟
 舟
 舟

物持よ 心をば ぬるまじき 乙女は

お紫賀

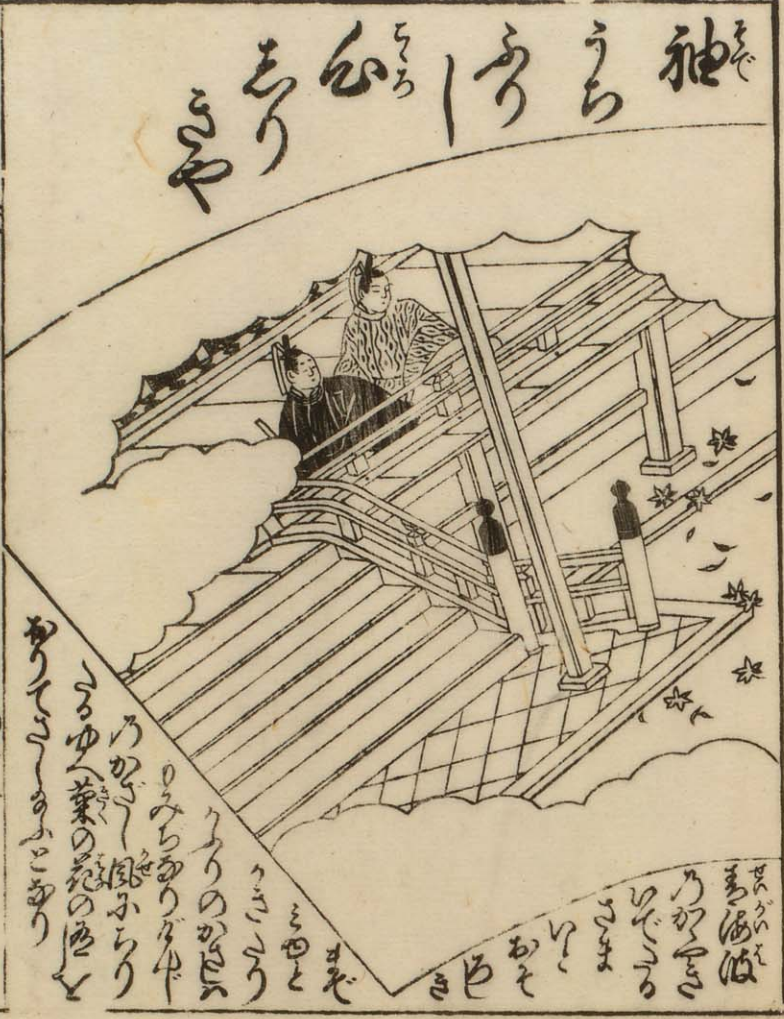


乙女は 藤原の御孫なり
 乃木の御子に
 あり
 十七歳
 青波波と
 氏物
 ちりふ
 本の紫
 中らり

寫錦袋

十七

袖はら あり 心を あり



あまを
 まを
 みるあり
 らのあり
 のあり
 のあり
 あり
 のあり
 のあり
 あり

寫錦袋

十八



新女神

几帳仕立已向下より袋とあり
 又の想兼様いさううひん
 冷での地紋うささあともく

一文字向やと景りよと
 白雲のらん合せ後の紋と書二重様
 赤尾角向の玉の
 右の玉と金張りの仕立あり
 二重重うひんあり又又と又又入りやれど一

六セウ
 ハリハ
 合サキ
 ウシケン

帯の
 五ふれ
 せりり
 おそろ
 まて
 とつろ
 よこれ
 中筋と
 りり
 うきと
 長巻と
 のおら

伊勢物語

ひしやとこ女のりんた
 のとむりて又むらぶさ
 ありふたれを女を供ふ
 不に貴業とらむ
 とくくむらうけふん
 なる

我らうり想ふんを
 又むらぶさと
 せむあの下り

何のなり

東にうりなれ男とて
 水はふまわらぬ百歩
 かくれさああの一と
 りああうりや



母を養へる
 ひよむらさ
 あらうぬ
 らなむら
 めしてま
 まうり水
 ながし
 今ま
 り糸を
 わらす
 り

葉平ふ下

わらわとこふのかふ
 けふとほしくあふとて
 かきとりけりてとるれ
 ほけいりぬふのふと
 足さばふ月のけりりふ
 常いといふうれり

富士の孫

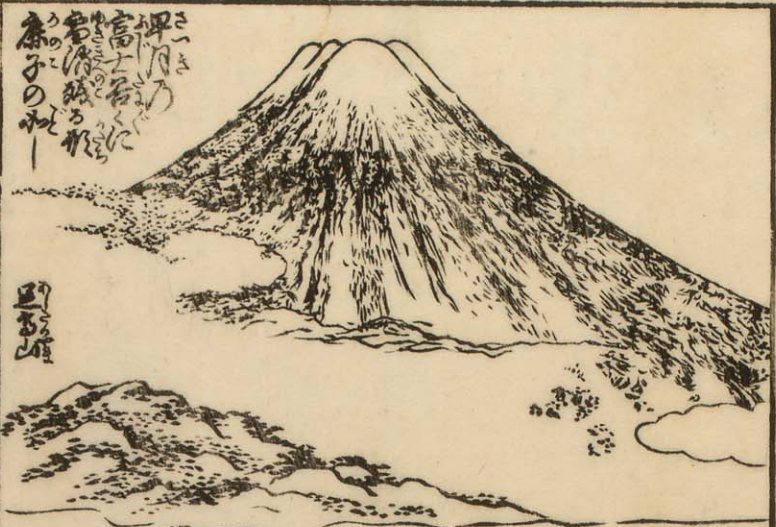
りりそり

かのこ

まごころふ

若き孫

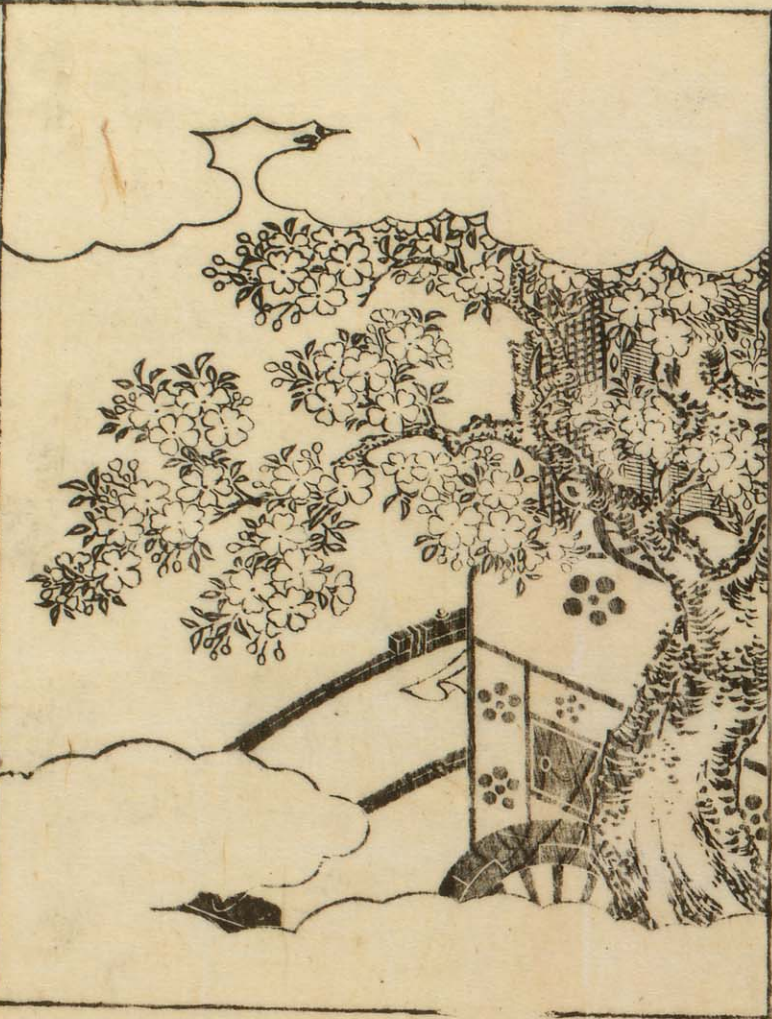
在る葉平



六佐

佐

白し藤子
 同地傳者
 下八葉平
 葉平ふ下



女
花見車
之湯

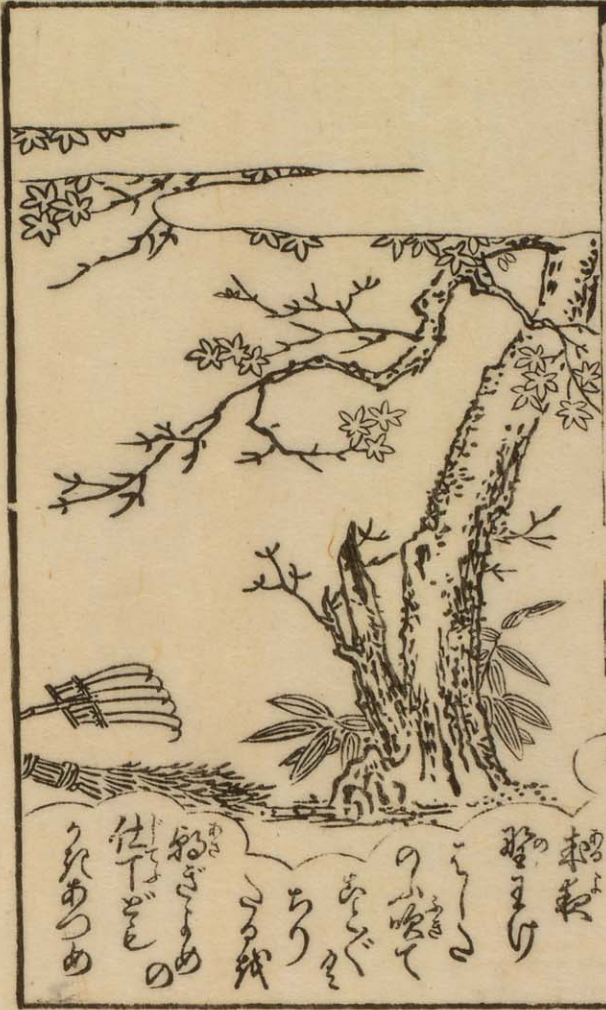


夕のかりそへ
 年徳盛長清依りつがひとりの
 空女のりへ通つたなり
 ありあつた
 此の月とわさつる
 月
 下まつる
 如
 女
 おほく
 んんえ
 ひろひ
 わげ
 先を
 つく
 の月がそや
 とつひつれが
 依の局おむと



雲井
 あり
 来
 月あれ
 る
 籠
 いん
 おし

白石文集
林間煖酒燒紅葉
石上題詩拂綠苔



言念院に於て
愛一丈四寸
極たまひいじ
抄
極たまひいじ
のこぎて
あまぐ
ちり
なる
船さし
仕下ぎ
うれあつめ

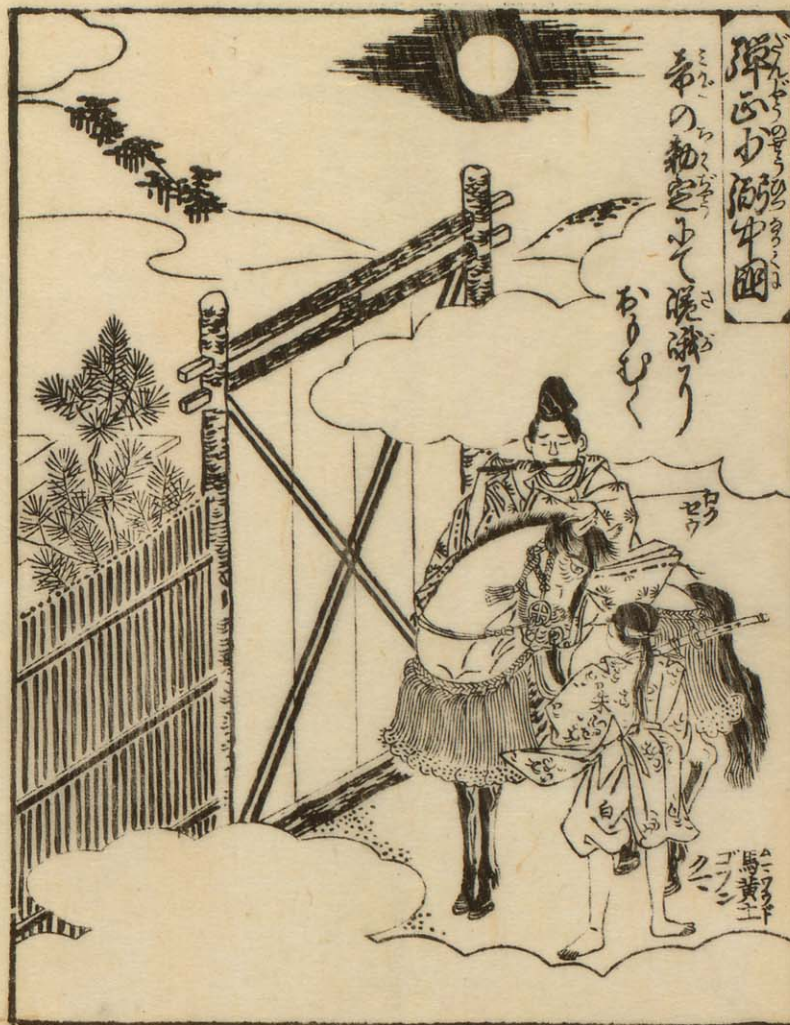
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十



三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

彈正少將中納言

希の初定よて暖湯あり
おろむ



馬養士
クニ



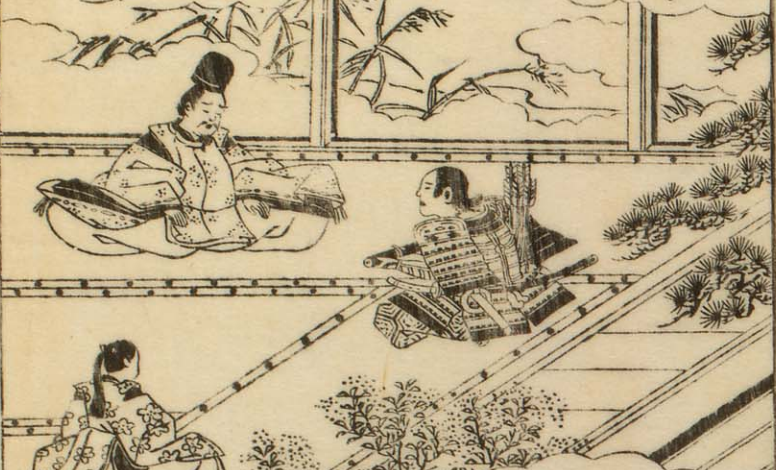
今錦任立
委二為二卷
小見四

後摩守平忠房

割の承三年七月廿六日平家
 人の物と家なまふにり忠房
 尾形誠出られ一がなより
 了く一三條の二位後成つ
 家又新奥豆の
 共物一袖を
 千載集とて
 たせられは忠物の
 内一首ありと
 作向んかうふ
 されり一巻
 中これら
 きの後世評
 まり子集

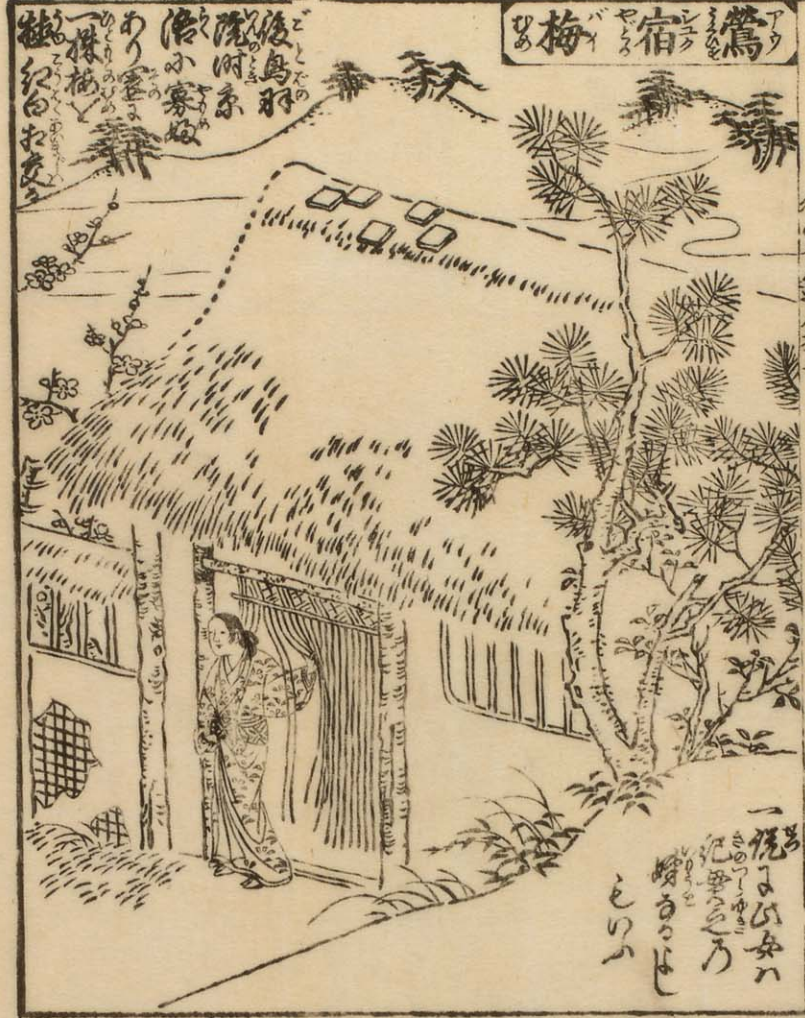


撰せしむるの時
 の忠物の内
 たまはる
 いとくも
 くれは
 物動の
 人ま
 名
 わくして
 入る一首
 ありびと
 ありずと
 われり



故郷の花と
 心とあり
 さがばや恋の
 都はあれ
 ひ
 山橋
 三千

鴛宿梅



後鳥羽
院の東
傍の寮
梅の影
梅の影
梅の影
梅の影

一
鴛宿梅
の
影
の
影
の
影



そのまゝの
春雲
有
木常
丁宿
相傳
者物
和歌
物
最
後
先

鸚鵡小町一字返袂

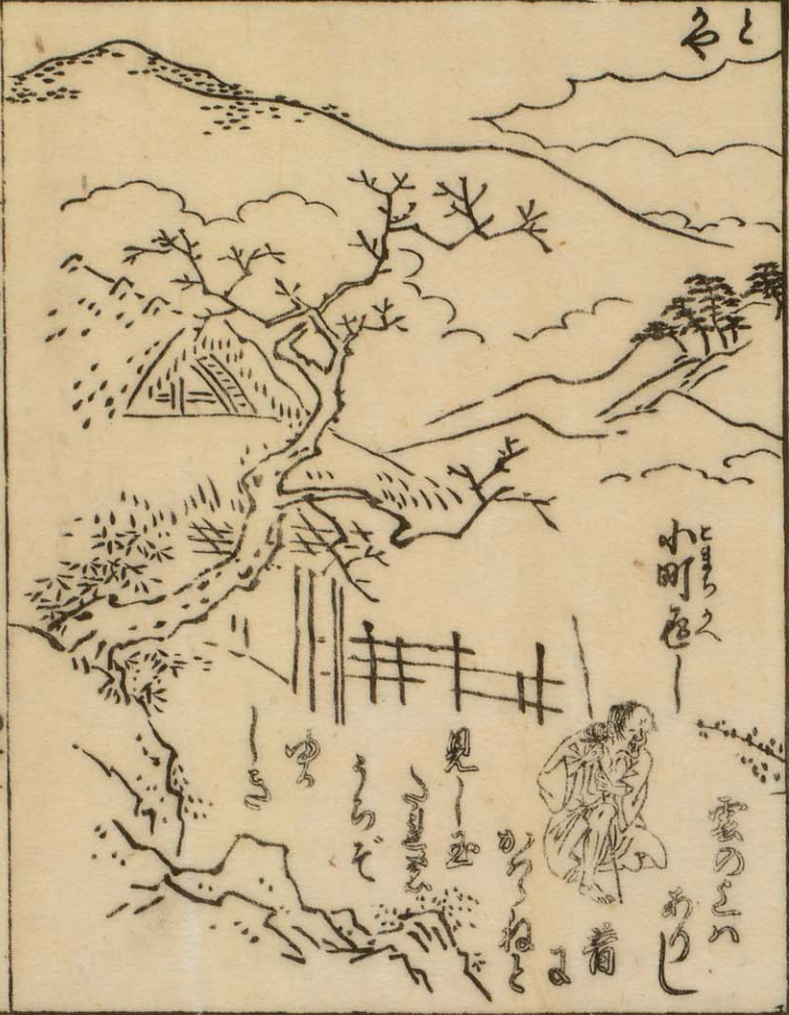
小町小町百景
の境とありて
雲あふふふ
ありたる所
あられもの
漸々つる
されふそ
狂言とぞ
このより
ふかま
とそそ
ま
し



新大細行家
物役

陽成院御製
雲のうま
ありし首り
かたし梅ど
ん玉ぶれの
うらやま
し

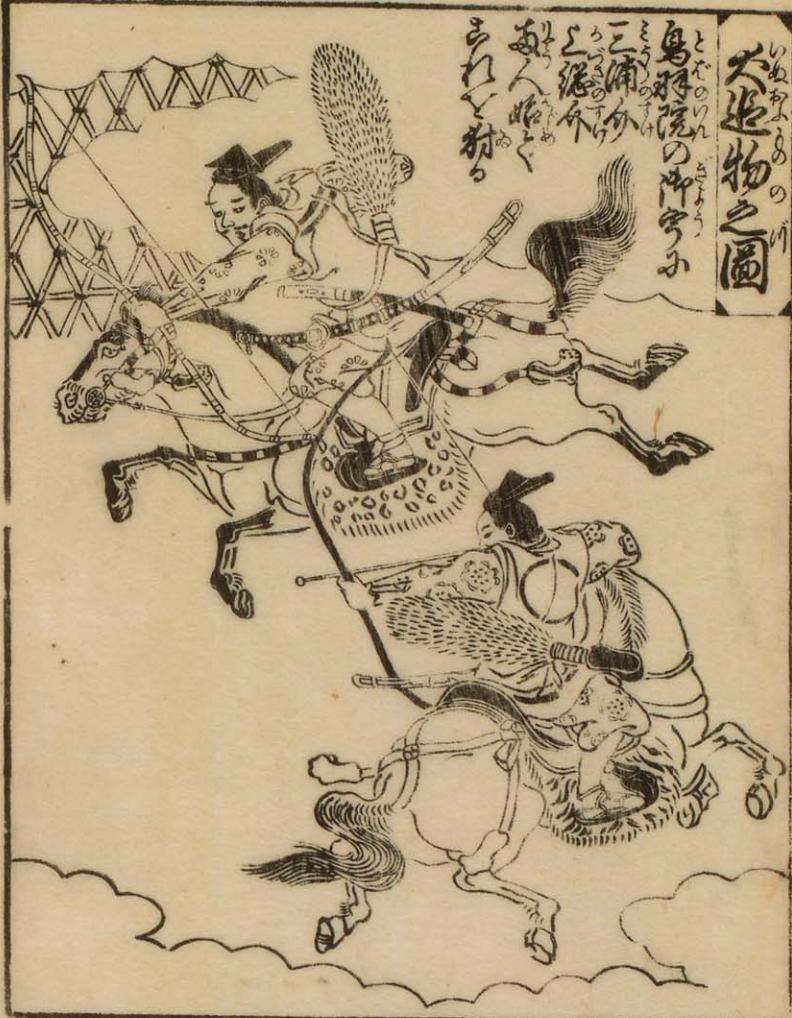
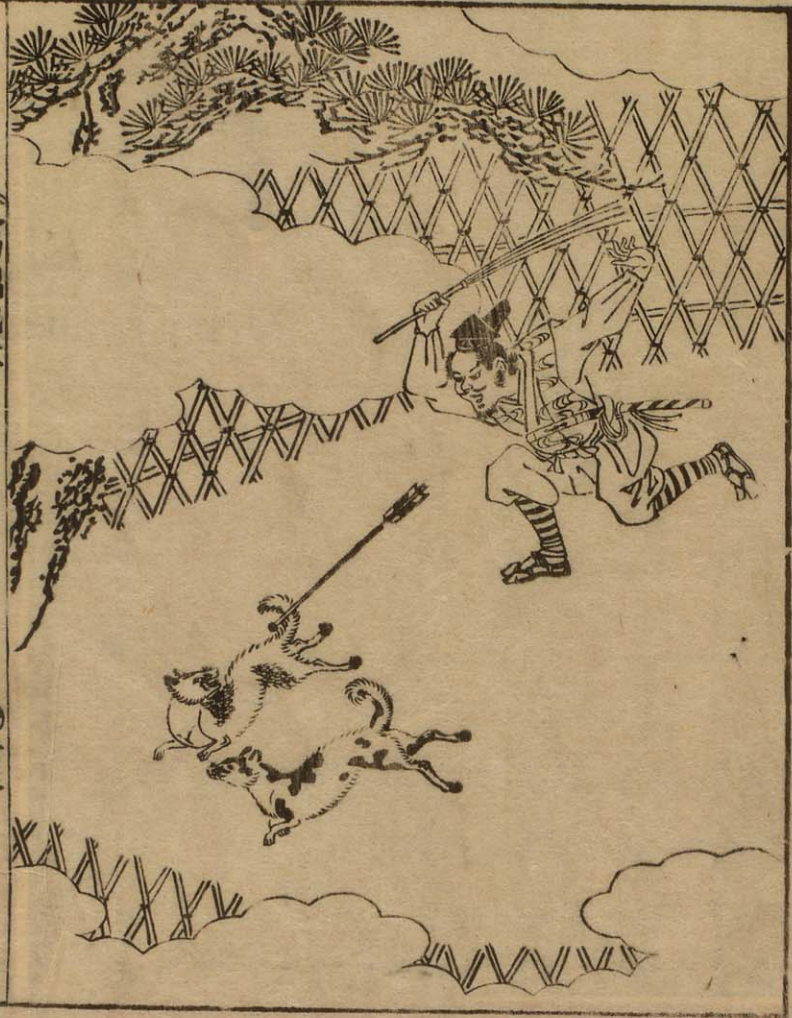
と



小町屋

雲のうま
ありし

見一玉
うらそ
わねま
着



大逆物之圖

鳥羽院の御宇に
三浦の
と源介
と人
まわつた